

資料

(1) 国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会の設置

史跡伊勢国分寺跡及び周辺整備基本計画策定に当たって、下記の規則・要領に基づき国史跡伊勢国分寺跡整備検討委員会が設置、運営された。

① 鈴鹿市市民委員会規則

(設置)

第1条 市政における各種行政課題等に関し市民からの意見を聴くとともに、市民参加の開かれた市政の運営等に資するため、鈴鹿市市民委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(名称等)

第2条 委員会の名称、所掌事項等は、別表のとおりとする。

(任期)

第3条 委員会の委員は、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

(部会等)

第5条 委員会に専門事項の調査検討、軽易な事項の審査等必要があるときは、部会又は小委員会を置くことができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理させるため、委員会に、事務局を置く。

(委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、要領で定める。

別表21

名称	国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会
目的	国史跡伊勢国分寺跡の保存及び整備事業の推進を図る。
所掌事項	(1) 国史跡伊勢国分寺跡の保存、整備、活用及び管理に関すること。 (2) 前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項
選任基準	(1) 学識経験者 (2) 専門的知識の有識者 (3) 市民 (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者
定数	10人以内
任期	史跡の保存整備事業が終了するまで
事務局	文化振興部考古博物館

② 国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会運営要領

(目的)

第1条 鈴鹿市を代表する国史跡である、国史跡伊勢国分寺跡を鈴鹿市考古博物館と一体として利用するために国史跡伊勢国分寺跡の整備に関することを検討する。

(協議事項)

第2条 委員会は、その目的を達成するために、次の事項について協議するものとする。

- (1) 国史跡伊勢国分寺跡の保存、整備、活用及び管理に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員会の委員は次に掲げる者の中から市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 専門的知識の有識者
- (3) 市民
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 史跡の保存整備事業が終了するまでとする。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長1名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が議長となる。

2 委員会は委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員長が必要と認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(会議の公開)

第7条 委員会の会議は原則公開とする。

2 委員会の傍聴要領は別途定める。

(専門部会)

第8条 委員会に専門事項の調査検討するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、委員長が指名する委員を持って組織する。

(事務局)

第9条 委員会の事務を処理させるため、文化振興部考古博物館に事務局を置く。

(その他)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附則

この要領は、平成18年9月4日から施行する。

(2) 国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会の検討内容

●第1回委員会 2006年9月25日

<意見骨子>

- ・国分寺跡の整備は単に歴史的遺産を公園化するだけでなく、これからの鈴鹿市にとって精神的な核となる整備となるといえる。
- ・国分寺跡は昭和63年から八賀先生等のご指導をいただきながら北勢バイパス建設計画にともなって範囲確認調査を行い、その後、開発構想であるレインボウ・ヒルズ計画ができ、また博物館建設懇話会で国分寺跡の保存や整備に対する関心が高まり、市の総合計画への位置付けがスムーズに行われた。
- ・これと平行して平成7年から3か年で博物館の建設用地とともに歴史公園用地として約7万㎡の土地を地域の人々の協力で公有地化した。
- ・平成11年から本格的に寺域の中を調査し、主要な建物の規模や位置が明らかになってきた。
- ・平成18年度は基本計画の見直しを、平成19年度に基本設計を行い、平成20年度には実施設計に入りたい。
- ・設計の詳細については専門委員会を設置するが、各委員には必要に応じて事業の進捗状況を説明し意見をいただきたく、委員の任期については、事業終了までとした。
- ・平成12年度策定の基本計画はどこにでもある内容。
- ・事務局案として史跡整備の共通認識として5つの前提条件を考えた。
 - ①『文化財の保存を前提とする』
 - ②『発掘調査等の成果に基づくもの』
 - ③『市民が広く活用できるもの』
 - ④『まちづくりに活かせるもの』
 - ⑤『考古博物館との一体的活用を図る』
- ・博物館の勾玉作り等のイベントが好評のようである。それによって市民に博物館の存在が知られている。このことから何かイベントと絡めていくことが史跡整備の一つの在り方であると思う。
- ・足が悪くて国分寺まで歩いて来れない人や、車などの交通手段を持たない小中学生の意見も大切だと思う。それらの人々の交流の場となることで博物館と国分寺跡の活性化につながる。
- ・整備においては「やさしく、楽しく、意味深く」ということが大切。
- ・従来の保存整備は施設の整備などを行ってもその後は利用者のいない状況になる。これを凍結的保存とすると、これに対してもっと活用していくのが現在の考え方である。観光や都市計画との十分な調整を行いながら連携を行った活用を考えていかなければならない。これは積極的活用と呼びたい。
- ・イベントだけの活用では一過性である。『歴史研究と学習の拠点』という考え方が整備には

必要。

- ・子ども向けのイベントだけでは、子供とその親は国分寺や博物館を訪れると思うが、一般の人たちはわざわざここまで足を運ばない。一般向けのイベントも必要。
- ・市民アンケートを見ると弁当持参で訪れて、のんびりできる施設として整備してほしいとか、博物館との一体的整備を希望する人も多い。
- ・マスコミ・CNS等を活用して認知度を高めていく必要がある。
- ・鈴鹿市だけでなく全国を対象とした計画を立てるといった視点が大切。
- ・美濃国分寺の整備に携わったが桜を植栽したのがよかった。あと、遠足も子どもから親に伝わって関心を持ってもらえた。周辺の遺跡との遊歩道の整備も一緒にする必要がある。
- ・大黒屋光太夫記念館や佐佐木信綱記念館、白鳥塚1号墳等の文化遺産を使って観光と散策マップを作成する。
- ・年に1回は音楽イベントなども必要。
- ・博物館の常設展示のリニューアルも含めて検討が必要。館は積極的に外部に向かって発信していく必要あり。

●第2回委員会 2006年11月7日

<意見骨子>

- ・考古博物館の活動内容は「夏休み子ども博物館」が好評で参加者が年々増加している。
- ・博物館との一体的な整備活用が求められており、伊勢国分寺ならではの整備も大切である。
- ・伊勢国分寺跡について知ってもらうために伊勢国分寺跡のPRを行っていく。
- ・地元自治会としても協力できることは協力していきたい。
- ・文化財である以上、文化財の保存を前提として整備を行う。
- ・イベントの実施を民主導で進めるのであれば、イベントの運営できる人材を育てることが必要になる。
- ・「国分寺語り部養成講座」を設け、知識だけでなくロマンある人材、もてなしの心を持った人材を育てていく必要。
- ・人材の育成とイベントの実施は並行して行う。
- ・伊勢商工会議所が「伊勢検定」をやっている。将来は合格者が有償ガイドを務めることも考えている。このようなことを鈴鹿でやってみてはどうか。
- ・国分寺の建立を命じた聖武天皇が国分寺に込めた思いを大切にしたい活用を希望する。
- ・往時のしきたり、例えばひな祭りや月見等を再現したイベント等、現在行われている行事は国分寺の時代どのような形だったのかが比べられたら面白い。
- ・伊勢国分寺では建物の建っていた位置は分かるが規模は分からない。
- ・平面表示は専門家でないとなんを表現しているのか理解が難しい。
- ・建物の復元を行えばその維持管理に大きな費用がかかってくる。
- ・文化財の保存、国分寺の存在を後世に示すことが整備の第1の目的。
- ・講堂については基壇外装の一部が検出されている。他事例を参考に基壇の復元をしてみてもどうか。
- ・講堂から出土している塼は台形塼という特殊なもの。それを復元するのも面白い。
- ・市民の立場からすると使いやすさや維持管理費のことも大切だと思う
- ・活用は3種類のプログラムに分けることができる。
 - ①国分寺について知ってもらう
 - ②国分寺が存在した時代について知ってもらう
 - ③まちづくりの観点である
- ・この分類のもとで見ると国分寺について知ってもらうプログラムが不足していると感じる。
- ・国分寺本来の機能である宗教施設としての機能の延長上で活用するのは難しい。一方、国分寺は当時の大学的な役割があった。伊勢国府との関係もあり当時の知識階級である役人や僧がそこで行っていた年中行事を取り入れた活用も考えられる。

<意見骨子>

- ・縮小模型の範囲は伽藍配置が分かる程度。
- ・掘立柱建物跡の立体表示施設は瓦葺きにしない（板葺きか）。
- ・適所に解説板等を設置する。
- ・適所にベンチを設置する。
伽藍内の小区画に設けられた門の跡は透水性舗装による平面表示とする。
- ・主要伽藍の基壇上に花の咲く植物を植栽する。
- ・基壇は盛土による立体的表示がよい。（活用のしやすさを考えると平面表示を推す意見もあるが、学習効果を考えると立体的表示が好ましい）
- ・伊勢国分寺では遺構の保存状態が悪いので、復元は難しい。立体的表示にしても十分検討して行う必要あり。
- ・地元としては緑がたくさんある、視野の開けたゆったりとした空間としての整備がよい。
- ・南東隅の掘立柱建物跡は復元ではなく、アズマヤとしても利用できるようにした立体表示施設とする。
- ・屋外の適所にトイレが必要である。
- ・現地に立ってみると北に住宅の屋根が連なっており、高木を植栽するなどしてこれらを目隠しするべきである。
- ・伊勢国分寺は築地跡から寺域の四方が分かっていることが特徴であり、この築地跡を表示し国分寺の大きさを明確にすることはよいことである。
- ・中心伽藍跡を花壇で表現する試みは、恐らく全国でも初めてのこと。
- ・柱の推定場所に種類の異なる花を植えるなどして柱の位置を表示してはどうか。
- ・種類を変えるだけでなく大きな植木鉢に植えるなどして場所を一段高くすれば、花のない季節も柱位置が分かる。
- ・便益施設について、子連れの来園者がおむつを替える等の場所がほしい。
- ・花を植えて建物跡を表示するというのはとても面白い考え方だと思うが、管理の体制や仕組みを作らないと、問題が出てくるのが予想できる。
- ・発掘調査の成果に基づいてその成果を分かりやすく表示するという考え方に基づいていると思うが、そこにはストーリーが必要である。食堂跡であれば、僧侶の生活が表現された整備にしなければ、調査結果をとりあえず地上に表現しただけの整備になりかねない。
- ・桜等は市民のために植栽してほしい。
- ・高齢者のことも考え、休憩できるスペースも必要である。
- ・植栽による表示というのは鈴鹿らしさという点でとてもよい。（園芸関係の仕事をしている人がかなりいるらしい）
- ・植栽にかかる維持管理は、市がどのような管理体制で予算を確保していくかということ、十分に検討する必要がある。

- ・市民による参加型の整備を目指すべきである。
- ・花を市民の手で植えることで伊勢国分寺の整備に市民が直接関わることになり、一層伊勢国分寺跡を身近なものとして感じることができるようになる。
- ・伊勢国分寺跡の整備後にはそれを管理するための専門の担当者が必要である。
- ・博物館の西側の広場には、目立った遺構がない。この部分を花の園や憩いの空間として整備する。
- ・史跡指定地西側の北勢バイパス予定地の一部が耕作地となっているので、そこへと向かうための迂回路や国分寺跡を周回する園路、管理用道路等が必要である。
- ・史跡指定地の周辺部は国庫補助金で購入していないため、利用は比較的融通が利く。
- ・南門と築地塀に沿ったあたり、特に博物館の北西側が土地が若干低く、水はけが悪い。
- ・講堂の方に向かって高くなっており、水はけが良く乾きやすい状態である。
- ・市民ボランティアの制度づくりが必要である。
- ・管理にあたっては専門的な知識を持った者が、ボランティアを育てていくということが必要になる。
- ・市民参加型にするのであれば、年間通じて参加してもらえるように、市民にもメリットがある仕組みを作らなければならない。例えば植栽教室やせん定の技術を学ぶことができるといった、得るものがある仕組みにしていくことが大事である。
- ・博物館内でのイベントと合わせて館外のイベントも同時に進めてもらいたい。
- ・博物館への公共交通機関も必要になる。
- ・展示内容のリニューアルも考えてほしい。
- ・ボランティアなどを公募し、博物館と協働でイベントをやっていくことができるように、地元を含めた運営委員会を設定して、話し合いができる場を作っていくことが必要。
- ・ボランティア活動等については草刈等のお金がかかる部分はどこかで帳尻を合わす必要がある。
- ・市民参加型とは、企画運営も自主的に行うようにしていかなければいけない。自主独立した組織を作っていくことが必要である。
- ・国分寺跡を整備することによって、鈴鹿市の文化振興の拠点として考古博物館でも幅広い文化活動を掘り起こしていきたい。

●第4回委員会 2007年1月12日

<意見骨子>

- ・基壇上に花を植栽するという整備手法がメイン。
- ・金堂跡では柱跡の推定位置に鉢植えの花を設置して表現する。
- ・ほかの国分寺などを参考にして柱位置等を決定する。
- ・史跡指定地内にはトイレなどは設けない。
- ・文化庁では基本的にトイレ等を史跡指定地外に出したがつている。
- ・解説板のようなものを整備し、それによって国分寺について理解を深めてもらうことが必要。
- ・基壇上に花を植えて建物の跡を表示する整備の方法は維持管理に大変な労力が必要。
- ・ボランティアの協力といっても持続的かつ専門的な活動ができるボランティアは少ない。
- ・10年、20年といった視点で見たときに木がどれくらい大きくなるのかといったことも考慮する必要あり。
- ・博物館からの視界だけでなく、国分町など外部からどのように見えるのかといったことも重要。
- ・広い空間を確保しておいて、夏に灯明を並べるイベントをしてはどうか。
- ・市民の手で花を植え、ボランティアをやってくれる人たちを多く集め、組織化し、伊勢国分寺跡を守っていく。
- ・国分寺跡であるということを知らしめるのは大切なことですが、伊勢国分寺は住宅地が近接していることから、イベントで活用するだけでなく、日常的に散歩に来たり、子どもたちが遊びに来れるような場所にする 것도大切。
- ・僧房跡では推定柱位置に合わせて低木を植栽する。
- ・北面築地上の樹木は、北側の民家を隠す意味からも常緑の高木がふさわしい。
- ・市民に遺跡について学習してもらったうえで、何をどこに植えていくのかを決めるといように、国分寺跡についての学習と理解を深めるといことと植樹等のイベントを結びつけていくことが花を植えることのねらいの一つである。
- ・住民が自主的に活動している本当の意味でのボランティアによって支えられなければならない。
- ・地元で多少なりともお金が落ちるようなシステムを構築する。その上でせん定などの技能も得られるというようにすれば、大変ではあってもやっていけるのではないか。
- ・国史跡の場合、特別交付税が交付されている。それをベースに考えていけばいい。
- ・伊勢国分寺跡では遺構の保存状態が良くないのが、特徴の一つである。
- ・寺域のほぼ全体が史跡に指定されており、遺跡を分断してしまうような大きな道路もないという点が有利な特徴。
- ・伊勢国分寺は伊勢の文化の中心地であったということを感じられる整備にしたい。
- ・伊勢国府跡との連携についても触れてほしい。
- ・鈴鹿市のその他の文化財に先駆けて伊勢国分寺を整備する。

- ・伊勢国分寺の特徴についてもきちんと述べておく。寺域がはっきりとしていることとか、博物館が既に整備されていて、史跡地に隣接していることなどについて。
- ・アクセス道路の整備について触れる。
- ・レインボウ・ヒルズ計画でリサイクル処理場へのアクセス道路として伊勢国分寺の近くを通るかたちで道路を整備するというになっている。
- ・総合計画にレインボウ・ヒルズ計画が位置付けられて、この道路の話がでてきたときも博物館の整備と関連づけて、博物館へのアクセスのためにも必要であるということだった。
- ・何のために伊勢国分寺を整備するのかについて触れるべき。すぐ近くに博物館があるのだから、それを活かして、全国の国分寺の研究であるとか情報の発信ができるようにする。
- ・一般の人も学んで楽しむことができ、専門家が来れば専門的なことにも対応できる二本立ての整備が必要。
- ・地元レベルの話で、国分町の有志の数人で、レインボウ・ヒルズ計画と関係して地元の未来を考える集まりをもっている。
- ・三重県全体的にもモデル的な活動である。
- ・1月30日に市長に提言書を提示し、提言書の内容を受けて基本計画書をまとめる。次年度には基本設計に入る。専門部会を作り、専門の先生方を中心に協議を進めていく。

(3) 国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会の提言書

国史跡伊勢国分寺跡整備検討委員会での検討を踏まえ、平成19年1月30日に鈴鹿市長に対して『国史跡伊勢国分寺跡の保存・整備・活用に係る提言書』が提出された。

『国史跡伊勢国分寺跡の保存・整備・活用に係る提言書』

平成19年1月30日

国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会

はじめに

文化財は、こころの時代といわれる現代において、郷土を愛するところを育む土壌となるもので、こころ豊かな市民生活を実現させるためには欠くことのできないものです。また、文化財は、地域の成り立ちを学ぶ上で重要であり国民共有の財産であることから、人々が文化財に親しむことができるよう保存、整備及び活用を推進していくことが重要であり、このことに関する行政の役割は増大しています。

伊勢国分寺跡については、鈴鹿市により平成12年12月に『史跡伊勢国分寺跡及び周辺整備基本計画』が策定されていますが、その後の発掘調査により新たな事実が解明されました。また、史跡整備に対する社会的な要求がハード中心の整備からソフト中心の整備に大きく変化してきました。このため、本委員会ではこれらの変化に対応した新しい史跡整備について検討を重ねてきました。ここでは、検討内容のうち、主に『整備』と『活用』について提言します。

鈴鹿市においては、日常的に市民の視点に立った活動を目に見える形で展開することの重要性を認識し、具体的に行動することを望みます。

1 国史跡伊勢国分寺跡の保存・整備・活用の意義

鈴鹿市は、律令国家が形成された古代において、古代東海道が通り、現在の三重県の大部分を占める伊勢国の国府と国分寺が所在し、伊勢国の政治と文化の中心地でありました。国分町に所在する伊勢国分寺跡は鈴鹿市を代表する遺跡であります。この古代の人々から受け継いだ貴重な歴史的遺産を、未来に継承するために保存し、文化財の重要性や地域の歴史を学ぶ場として整備し、多くの市民にこれらのことを知ってもらうため活用することは文化財を預かるものの使命です。

伊勢国分寺跡には、ガイダンス施設の機能を兼ねた考古博物館が併設されています。また、広大な寺域全体が周辺を含めて約3.7ヘクタールが公有地化され、周辺は農地や緑地が広がるなど視界を遮るものがなく、古代の様子に思いをはせることができる環境は他の史跡に比べても非常に恵まれており、このことが伊勢国分寺跡を特徴付けていると言えます。

この特徴を活かして古代の国分寺の様子を表現する歴史公園の整備を推進することは、鈴鹿市の文化振興及び観光振興を歴史の面から支えることにつながります。さらに、市と市民が協働して伊勢国分寺跡を活用した新たな文化活動を興すことは地域に誇りを持てる鈴鹿市を実現することにもつながります。

2 伊勢国分寺跡の整備の基本目標と基本方針

(1) 基本目標

総合計画の基本構想には、『魅力ある「すずか文化」を受け継ぎ、生み出していきます』と掲げられています。魅力あるすずか文化の形成は地域の歴史や文化に負うところが多く、史跡はその中心となります。中でも古代において国分寺は『国の華』と謳われ、華やかな文化は各地に伝えられました。

この伊勢国分寺跡を活かして文化のかおるまちづくりを目指します。

(2) 基本方針

基本目標を実現するための前提として、次の5つの基本方針を提言します。

・文化財の保存に基づく整備

史跡の整備だからといっても文化財に手を加えることは許されないことですので、文化財の保存に十分配慮しなければなりません。また、広い意味での保存として全国の国分寺に関する調査成果や文献を集積し、学術的な保存を推進しなければなりません。

・発掘調査の結果に基づく整備

文化財の整備は見学者に誤解を与えないためにも、発掘調査によって分かったことを事実に沿って実施しなければなりません。そうでない整備は文化財としての価値を損なうこととなります。

・市民が広く活用できる整備

文化財や考古学に関心のある人以外にも訪れてもらえるような工夫と配慮をし、来園者が文化や歴史について少しでも関心を持つことができるような整備をしなければなりません。

・まちづくりに活かせる整備

ただ単に整備するだけではなく、その整備過程や整備後の活動を地元や市民と協働するなどし、文化的なまちづくりを担う整備をしなければなりません。

・考古博物館との一体化した整備

伊勢国分寺跡を単独で整備するのではなく、隣接する考古博物館を十分に活かし、歴史公園の整備で表現しきれないことについては考古博物館の展示で補うなど、一体化させた整備でなければなりません。

3 伊勢国分寺跡の整備手法

(1) 中心伽藍（建物など）の整備について

伊勢国分寺跡の中心伽藍については、遺構の残りがあまりよくないこともあり構造に関する情報は得られていません。しかし、その基礎である基壇については立体的な表示をし、伊勢国分寺跡が地域住民の誇りとなる整備を望みます。

また、緑豊かなまちという鈴鹿市のイメージを大切に、花や植栽を多く配置した鈴鹿市らしさのある市民のいこいの広場となる整備を望みます。

整備にあたっては、遺構を破壊することのないよう盛土を十分に施すなど遺跡の保護に留意して整備してください。

(2) 便益施設などの整備について

来園者の利便性を考え東屋やベンチを適宜配置し、また、屋外にトイレを設置することを望みます。

高齢者や障害者が気軽に訪れることができるように、ユニバーサルデザインにも配慮して整備してください。

(3) 地域への配慮について

現在、史跡内には地域住民の生活道路としての市道が所在しますので、整備後も地域住民の利便性と施設管理を考え、周回道路を整備してください。

整備の過程では、植栽や発掘調査などに積極的に地域住民や市民の参加を促すよう配慮してください。

整備に当たっては、その資材や植栽などについて鈴鹿市産のものをできるかぎり調達して地元産業との連携を深めることを望みます。

4 伊勢国分寺跡の活用の推進

(1) 市民との協働について

活用にあたっては市民ボランティアなどを早期に養成し、市民を主体とした企画運営をこころがけ、ボランティアの自主独立した運営支援に積極的に取り組む必要があります。

地元国分町との連携も強化し、地元が主体的に企画運営する催しが開催できるような働きかけをし地元が伊勢国分寺跡に愛着を持つように努力する必要があります。

(2) 考古博物館の活用について

考古博物館では現在行っている講座や体験学習などの催しを継続しつつ、地域の歴史学習の拠点となるように更なる充実に努める必要があります。

また、国分寺についてと国分寺が機能していた時代についての企画や展示がまだ十分ではないので、充実させる必要があります。

(3) 学習面での活用について

市内の小・中学校の地域史の学習の場として、伊勢国分寺跡と考古博物館を積極的に活用するように務めてください。また、市民の生涯学習の場となるよう、ボランティア養成講座などの継続して参加できる催しを企画し、学習したことを発表できる場の提供にも取り組んでください。

(4) より多くの市民が参加できる活用について

史跡の整備は、考古学や歴史に興味のある人を中心と考えてしまう傾向がありますが、むしろ、多くの市民が参加できるような灯明でのライトアップや音楽コンサート、演劇などの催しも実施する必要があります。

また、伊勢国分寺跡の広大な敷地を利用した屋外での体験やスポーツなどについても取り組んでください。

5 整備と活用が有効に機能するために

(1) 体制の充実について

歴史公園の整備は整備をして終了ではなく、整備後の維持管理こそが非常に重要になります。このため、維持管理に必要な予算や専門職員などの資源を十分に確保し整備後の歴史公園が荒地になることの無いようにしてください。

考古博物館での学習効果を高めるため、展示内容や映像ソフトのリニューアルなどをする必要があります。考古博物館の充実は、整備の完了時を目指した計画立案と予算確保に努めてください。

また、鈴鹿市の内部における連絡調整を密にし、事業がスムーズに進むよう努めてください。

(2) 利用者の利便性の向上について

伊勢国分寺跡は、市街地から遠く、周辺に公共交通機関が無いことから、利用者の利便性の向上に配慮し、アクセス道路の整備と市街地から直接乗り入れるバスなどの公共交通機関の整備に努めてください。特に、高齢者や幼児、児童、生徒などの交通弱者が気軽に訪れることができるようにすることが重要です。

(3) 周辺の文化財や施設との連携強化について

鈴鹿市内には、国分寺跡と関連の深い国史跡である伊勢国府跡や、ヤマトタケル伝説に関連した白鳥塚古墳が所在するなど、多くの古墳や遺跡が良好な状態で残っています。また、東海道や伊勢街道などの街道沿いには、幾つかの文化施設が所在します。伊勢国分寺跡の整備においては、このような多くの文化財と関連付けて見学コースを設定するなどし、散策マップや解説板の整備などを展開していくことが非常に重要です。このことは、鈴鹿市の新たな観光資源の開発と、文化振興にもつながっていきます。

(4) 周辺環境の保全について

伊勢国分寺跡は、非常に恵まれた環境の中に所在し、考古博物館3階の展望デッキからの眺望は遺跡の原風景を想像することができるという、他の史跡には無い誇るべき特長があります。この恵まれた景観を今後も維持していくために、無秩序な開発で景観が失われないよう、適切に調整することに努めてください。

6 伊勢国分寺跡の展望

これまで各章において国史跡である伊勢国分寺跡の保存・整備及び活用について提言しましたが、今後の展望について若干述べておきます。

鈴鹿市は古代伊勢国の政治と文化の中心地であったことは国分寺跡の存在で明らかですが、広瀬町に所在する国史跡伊勢国府跡もその中枢施設として重要であり、両史跡をセットとして把握する必要があります。将来の国府跡の保存・整備と相まってこそ、国分寺跡の保存・整備が有効性を発揮するものであり、このことを、先ず指摘しておきます。

次に、伊勢国分寺跡の活用には、全国的な視野に立つ学術的裏付けが必要であります。

そのためにも伊勢国分寺跡の活用の一環として、我が国の国分寺跡研究の拠点として位置づけることが重要であり、国府跡研究を併せた考古博物館の研究機能として明確に位置づけるべきことを提言します。

さらに、今回の検討委員会の最大の特色は、当初から地域住民と市民を含めた点にあることを高く評価します。特に地元国分町の自治会長を初めとする住民の参画は、こうした史跡整備検討の事例では三重県内でも初めてのことであり、また全国的に見ても画期的であり、鈴鹿市の英断に深く敬意を表します。

近年、行政と地域住民との協働が声高に叫ばれているものの、それが具体化される類例はまだまだ少数であります。そうした現状の中で、史跡整備の分野における協働の実現は、住民自らが郷土を愛し、郷土を誇りあるものにするために自らが責任を持つという点において、今後、全国のモデルケースになることでありましょう。それはまた検討委員の任期が、整備事業の完了までと位置づけられた点にもうかがえますし、その場限りではない責任の持つ重みを認識するとともに、この提言に向ける真剣さを生み出す源泉になっていることは言を待ちません。引き続き当委員会の斬新なスタイルを維持し、広く地域住民との協働を推進することを提言します。

以上、三点を「伊勢国分寺跡の展望」として記し、この提言を総括するものであります。

以上、提言しますので、これを格別に留意され整備基本計画を策定されることを要請します。

国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会

委員長 伊藤 久嗣

委員 内田 和伸

加藤二三子

桐生 明光

桐生 悦夫

箱崎 和久

橋爪 貴子

八賀 晋

林 紘

渡辺 寛

(4) アンケート結果

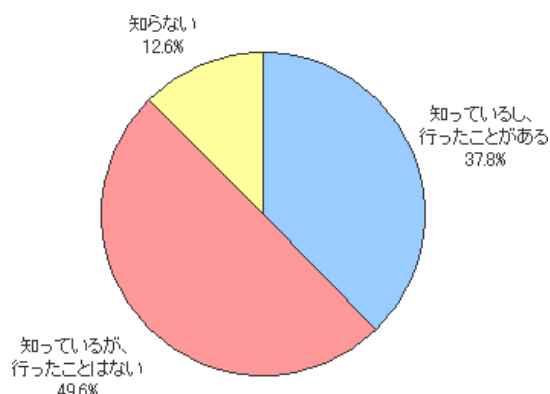
史跡伊勢国分寺跡の認知度とその歴史公園としての整備について市民から意見をいただいた。アンケート調査の方法、回答数等は以下のとおりである。

- ・調査方法 メルモニ登録者を対象としたインターネットアンケート
- ・調査期間 2006年9月4日(月)～2006年9月10日(日)
- ・配信者数 4611人
- ・回答者数 1464人
- ・回答率 31.8%
- ・回答者の属性

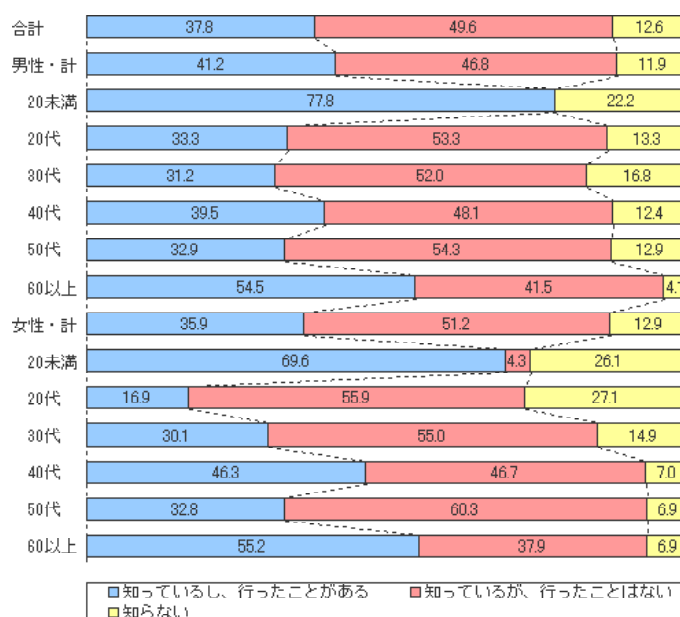
性別	男性	女性	年代	～20	20代	30代	40代	50代	60～
回答者数	536	928	回答者数	41	74	614	455	128	152
構成比	36.6%	63.4%	構成比	2.8%	5.1%	41.9%	31.1%	8.7%	10.4%

Q1. 鈴鹿市考古博物館について

回答項目の選択割合（総計）

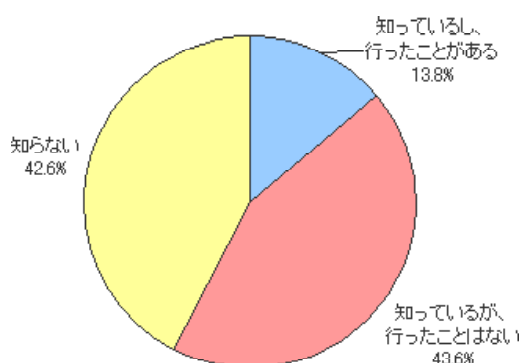


回答項目の選択割合（男女別・年代別）

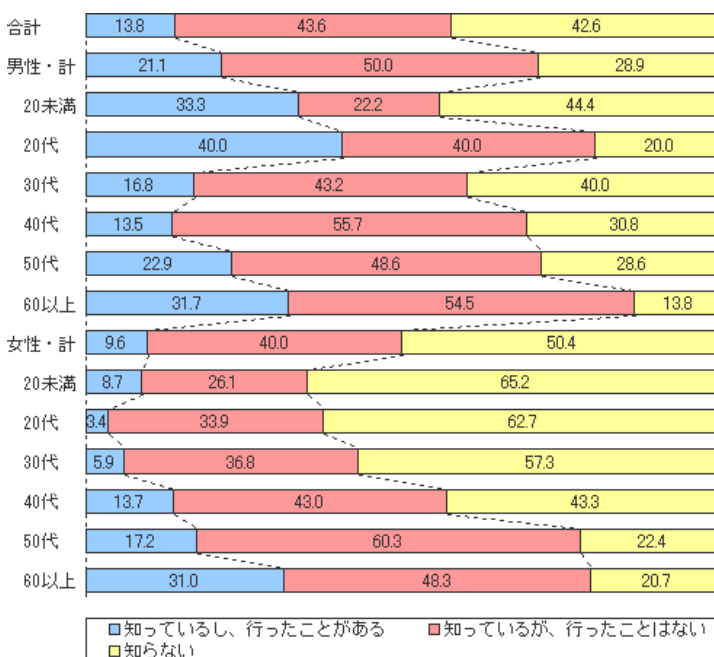


Q2. 国史跡伊勢国分寺跡について

回答項目の選択割合（総計）

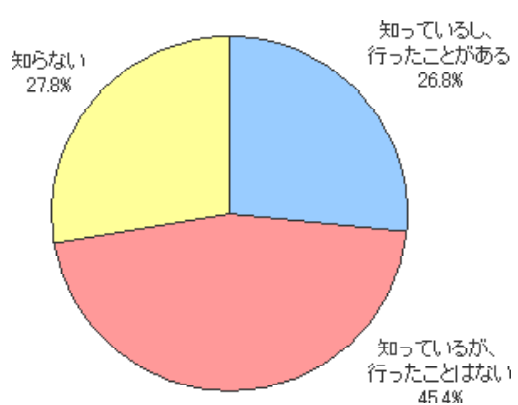


回答項目の選択割合（男女別・年代別）

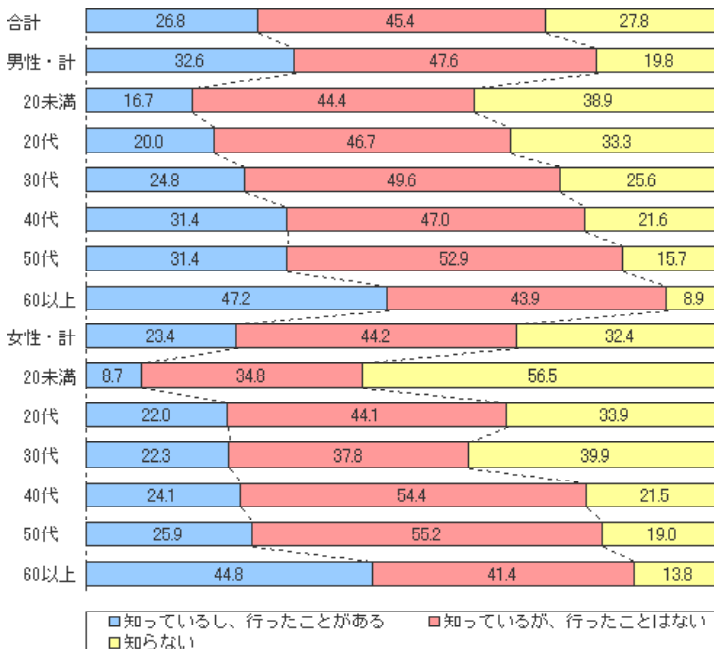


Q3. 平城宮跡（奈良県）、斎宮跡（三重県明和町）や吉野ヶ里遺跡（佐賀県）などの整備された歴史公園について

回答項目の選択割合（総計）

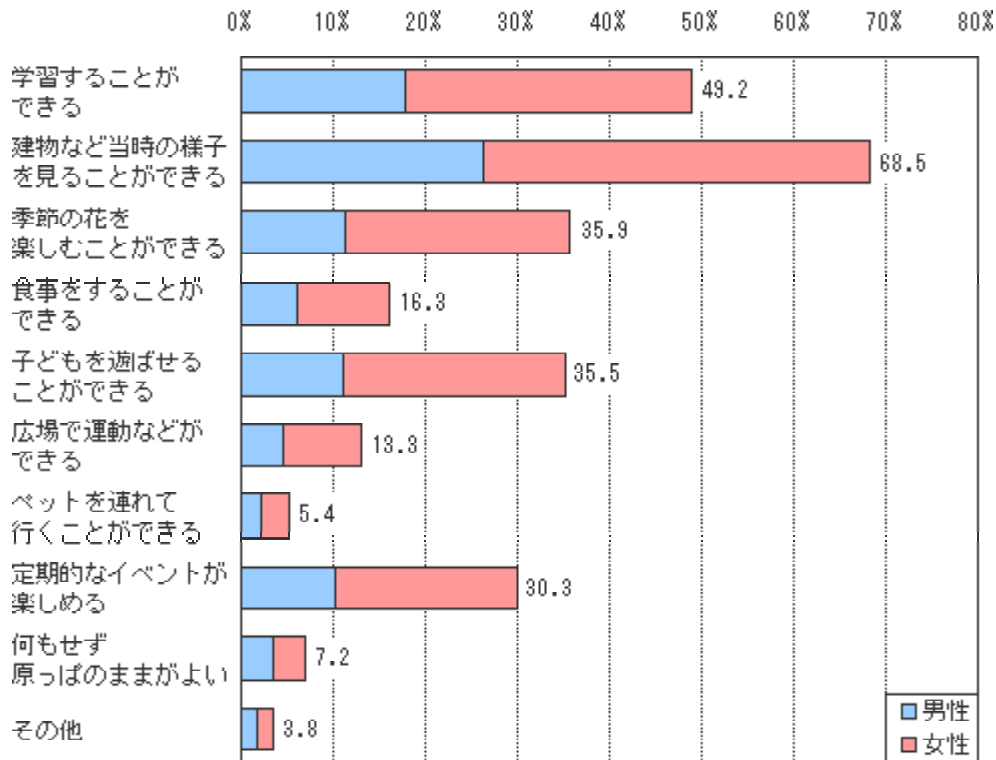


回答項目の選択割合（男女別・年代別）



Q4. 伊勢国分寺跡の整備にどのようなことを希望しますか（3つ程度）

回答項目の選択割合（総計・男女別）



寄せられたコメント

- 伊勢国分寺跡がどこにあるのかさえわからないのでアンケートに答え辛かった。大まかな地名も書いてあるとよかったです。(32歳 女性)
- 何もせず原っぱのままがよい (32歳 女性)
- 何もせず原っぱのままがよい (43歳 男性)
- 国史跡伊勢国分寺跡はわたしたち鈴鹿市民の貴重な財産です。博物館と一緒に有効に活用されることを望みます。桜やもみじなどを植えてお花見のスポットにさせていただけるとうれいすね。子供向けもいいですが、年配者がゆったりと落ち着いて過ごせるような「大人向けの公園」にしてください。(47歳 男性)
- 小さい子供を遊ばす所が少ないうえに公園などはペット禁止でも連れてきてトイレさせたままなので遊ばせられない (45歳 女性)
- 子供を気軽に連れて行ける公園が出来るといいな・・・と思います。(39歳 女性)
- 自然を壊すしてまで公園を作る必要ないと思います。勉強する事は大事なので、道はあぜ道ぐらいの整備でいいのでは？公園とか作っても誰も行かないだろうし、さびれて悪い子達のたまり場になるだけだと思います。(31歳 女性)
- 夏休みにまが玉作りに参加しました。子どもも楽しみにしていたので積極的に取り組んでいました。子どもが楽しんで参加できるイベントや場所になるよう楽しみにしています。(37歳 女性)
- 考古博物館にしても、とてもいい施設だが、あまり知られていないし、利用者も少ないような気がする。もっと利用しやすい工夫が必要だと思う。(38歳 女性)
- 公園として整備しすぎるのは良くないと思う。学習施設と遊べる区域をきちんと分けて考える

べきでは？（45歳 女性）

- 色々整備するにも、維持するにも、公園にはお金が、かかるので、整備するなら入園料をすこしでもいただいでできるだけ、採算が合う施設にしてほしい 鈴鹿はすでに、他の地域より公園はいっぱいあるから、質素な施設でいいと思う（34歳 女性）
- ?3の質問で、吉野ヶ里にはいったことはありません。知っていますが。（32歳 女性）
- 歴史は苦手なのであまり興味はなかったが、まが玉づくりに行ったことがあり 見てみると 結構興味深く見れた。見るだけでなく こういった体験コーナーがあると 楽しいと思います。（43歳 女性）
- 国分寺後の整備も良いが、もっと市としてして欲しいことが有るから・・・。（72歳 男性）
- 整備するのであれば、とにかく市民が利用しやすいようにしてほしい。この夏休みに考古博物館に子どもと一緒に参加型の催し物に行ったが、受付の職員も無愛想だったし、こんな展示に日曜以外はお金を払って見るの??という物が展示してあって、なんだかなあという感じでした。考古博物館は建物も立派で新しく、きれいなだからもっともっと 市民にアピールする企画をしてほしい。（41歳 女性）
- 考古博物館は好きで何度か行ったことがあります。公園が整備され、もっと内容の充実した施設になることを望みます。（37歳 女性）
- 夏休みに小学生の子供と行った。チラシで催し物を調べていったが結局参加しなかった。展示もされているだけでは・・・低学年には字も難しく。どこの博物館でも、もう一度来たいなあと思わせてくれる内容を考えてほしい。（41歳 女性）
- 国分寺跡の整備ですが、ぜひ、子供向けの遊具のある公園にして欲しいです。鈴鹿は市民がゆったりと楽しんで遊べる公園が、かなり少ないです。跡地の広さなどは知りませんが、広いのなら、大規模に子供が大満足するような公園にしてください。（例えば、海南こどものくにや養老こどものくになどのように）鈴鹿は他に比べたら財政が厳しくないから、こういう形で、もうちょっと市民に還元してもいいのでは？（32歳 女性）
- わざわざ見に来るといふ人は興味がある訳で 市内の遺跡の簡単な案内板などがあると良いと思います。（44歳 女性）
- 国分寺跡について今後整備なされて市民にとって活用できる施設になればいいとは思いますが、それに伴ってメンテナンス費用など問題も生じてくると思うので本当にどうすべきかをよく検討することが大事だと思います。（36歳 女性）
- 記憶に残り学習だけでなく楽しみにでき、また行けるような施設が欲しいですね（52歳 男性）
- 子供が小学校なので子供でも興味をもてるようにしてほしい（40歳 男性）
- 私は子供の頃、歴史好きな父によく城跡や歴史的建造物に連れて行ってもらいました。その時は古さを感じるぐらいでしたが、その後学校で学習したりテレビでみたりして、そこがどういふ場所なのかを知ると心に残るものだと思います。子供にはゲームばかりでなく、歴史に触れる経験もたくさんしてほしいと思います。（35歳 女性）
- 考古は、興味が有りません。（68歳 男性）
- 考古博物館があるなんてしりませんでした。（43歳 女性）
- 考古博物館は、少し不便な場所にあるので、先ずイベントを立ちあげて知名度を上げる。市報にも積極的に取り上げる。市民、特に子供の関心をひく行事を開いて、親たちを同時に動かす。今後の活気を願うには、そうした活力のある知恵が望まれる。（72歳 男性）

- 遺跡などは採掘された時と同じ場所で同じ状態での保存が望ましいと思う。再現したものは価値がない。例えば鉄筋コンクリートのお城等。遺跡は人により、時代によりその解釈が変わる。戦時中に我々が教えられた日本の歴史がどれだけ作られたものであるか、又それを信じていた人びと。遺跡をどのように解釈するかは個人に任せたいと思う。(71歳 男性)
- 子供と遊びながら学習出来ると良い。(66歳 男性)
- 史跡の紹介など市報でくわしくしてほしい。(42歳 女性)
- 建物の規模が分かる敷石や芝生張り程度の整備は必要かと思うが 過大な整備費や維持管理費がかかるものは不要と考える。 学習や建物の概要については、考古博物館の施設を利用することを考えるべきである。(53歳 男性)
- まず、たくさんの人に知って頂くようにイベントを打ち 親しまれることが大事。(56歳 男性)
- できる限り再現してほしい (39歳 男性)
- せつかくの史跡をわざわざテーマパークの様にする必要は無いと思います。その時代のことに興味を持っている人が、学べる場所であればいいのではと思います。(42歳 女性)
- 鈴鹿市には文化財が数多くありますがどれも規模は大きくはなく駐車場も無いに等しい所もありますから、シーズンだけでも巡回バスを運行されては如何でしょうか。(68歳 男性)
- 国道1号線やJRにも近く、交通の便利なところなので今後、まだ発展の余地がある、と思います。市民の憩いの場所としての整備を、お願いします。(76歳 男性)
- あまり手を加えず、学習の場にして欲しいです。観光地になって欲しくありません。(53歳 女性)
- 一部でもいいので、建物復元が実現するとうれしいです。(43歳 女性)
- 全然知らなくてすみません 機会があれば一度行ってみたいと思います (31歳 女性)
- 子供達が出掛けたり、学習する事ができるようにして欲しいです。物作り教室 (料金が1000円以内) も欲しい。昔の遊びを体験できたらいいなあと思います。竹馬、竹の水鉄砲、ロクロで焼き物、染め物など。そうしたら、いろんな人が出掛けられる。(42歳 女性)
- 古事記や日本書紀に出てくる史跡の多い当地であるから、それに相応しい遺跡整備が望まれる。それが観光資源ともなる。(63歳 男性)
- 子どもの学習や体験・体感、大人の生涯学習や興味を満たす場であって欲しいと思います。食事については、食堂・レストランや売店じゃなく、弁当が摂れるベンチなどがあれば十分でしょう。(51歳 男性)
- 歴史的価値があるので、是非それを活用して欲しい。(42歳 女性)
- 吉野がりは原っぱすぎで一度であきるから、どうかと思う。(33歳 女性)
- もっと身近に感じられたら、子供だけに押し付けるのではなく 家族みんなで、楽しんで勉強できるかなと思います。(32歳 女性)
- 建築物を作ってしまうと、利用は固定的になってしまい 維持管理に費やす費用の問題も起きる、 現状のままでも維持費用は掛かるが 今、東海地震等騒がれている万が一その様な 事態が生じた時の差仮設住宅の建設用地とかのための ために 年間何回かの草刈や他の費用は生じますが それは最低限掛かりますが何も建造物を作ったりするだけが 文化財の 敬称といえないと思います。 近い将来起こるべき災害の為に祖先が残してくれた財産だと思います。(64歳 男性)
- 考古博物館は町内にありますが行った事がありません・・・子供が小学校の頃は勾玉をよく作りに行っていました。遠くから訪れる方もみえるそうで・・・一度は訪れたいです・・・(4

3歳 女性)

- 定期的な催し物などありましたら、広報などで紹介していただければ有り難く思います。(63歳 女性)
- ただの公園ではなく歴史を学べる場所にしてほしい☆ (18歳 女性)
- 鈴鹿市に歴史跡をきちんと保存した場所が少ないので、これからは徐々に整備をして、鈴鹿市で観光・歴史を楽しめる町にして欲しい。伊勢街道の整備と町並み保存、椿大神社とか稲生神社、荒神山、フラワーパーク、ねじゃか、大黒屋光太夫、佐々木信綱、鈴鹿城址、上手く利用すれば観光都市にできるのではないかな？ (63歳 男性)
- この類の旧所名跡はどこも思い入れが勝ちすぎて立派な建物など金をかけてもほんの一部の人と一時だけの慰みで終わり後は閑散と人も寄り付かない施設となり勝ち。それよりも皆が楽しめる公園の中で自然に歴史の学習できることが好ましい。ギンギラギン要らない。(63歳 男性)
- 現在の問題は過去の問題でも未来の問題でもある。私たちはその機会を知らされずに育ってきました。少しでもいいから、その方面に触れる事が出来たら非常に重い事だと、考えます。宜しくお願いします。(50歳 男性)
- 齋宮に行った時、展示されている資料など見ました。感じたことは、周りの風景など、当時の様子が伺えるようになるといいな！と感じました。また伊勢国分寺跡の整備も当時の様子が再現に近い状態で進めることが出来ればと思っています。(50歳 男性)
- 考古博物館には、一度だけ行った事がありますが、なかなか勉強になり、興味深いものがありました。鈴鹿にもこういう所があると思うと誇りに思います。そういう公園を造るのだったら、大賛成です。(41歳 女性)
- 石碑の一つでも建てて、ここが何であったかが分かる程度のもので良いと思います。税金の無駄遣いはやめましょう。(51歳 男性)
- ゆっくりと時間をかけて見学できる様に整備してほしいです。(46歳 男性)
- 考古博物館は夏休みに、まがたま作りに参加させて貰ったことがあって近くに、体験出来る所があるのは、嬉しいです！もっともっと鈴鹿に、昔の体験施設を造って欲しいと思います。(39歳 女性)
- せっかく作るのであれば、市民が集える場所になって欲しい。作っても人が集まらず寂しい場所であったり、また整備が行き届かず荒れ放題の場所になっては税金の無駄使いです。市内でも少しはずれにあるので、行きたいと思える所にして欲しいです。(29歳 女性)
- 鈴鹿考古博物館は以前行った事があります。建物も整備され皆が楽しめる様今後も整備して、もっと市民の方が親しみ興味ある考古博物館を維持管理してください。(59歳 男性)
- 跡地整備ビジョンを問うアンケートであってほしい。(59歳 男性)
- 知らない名所旧跡がたくさんあります。鈴鹿市の歴史を学ぶことができれば、もっと身近になり、大切に思えると思います。(49歳 女性)
- 学童の楽しい体験学習をいろいろなテーマを取り上げて行ってほしい。自分で参加体験でき、親子で孫二人が行き大変喜んでいました。新しいテーマを次から次ぎへと企画実施していただきたい。(72歳 男性)
- 無駄な税金を使うな！ (30歳 男性)
- 大切な遺跡はとにかく「保存」「記録」を第一に。「多目的」という名目で肝心の「保存」が損なわれる愚は避けて頂きたい。(42歳 男性)

- 鈴鹿市は花の公園が少ない、史跡と花公園をだいたいの的に整備してほしい。(67歳 男性)
- 知らないことがおおいので、PRを出来るだけ多くしてほしい。(70歳 男性)
- 斎宮歴史博物館には、以前に3回ほど行ったことがある。最近では今年5月に鈴鹿市老連の歩け歩け大会が同所であり、参加したが 広い公園の芝もきれいに刈られており、ベンチや歩道やトイレ等も管理が行き届いていた。また、7月には同所で斎王まつりのイベントが盛大に催され、斎王の巡行の様子や、公園内で地域物産の展示即売を見ることができた。(70歳 男性)
- 広さが判らないのですが、歴史を感じながら散策できる公園になれば嬉しいです。(43歳 女性)
- 鈴鹿は特に古墳が多いように思います。国府町の保子理古墳は、回生病院内にあって、よく自転車等で見に行きます。ただ、看板だけで何も整備されていないのも、よくないのもわかりませんが、草刈等で中に入るのも、聖地に入っているのかなとも思います。(32歳 男性)
- 設備は1度造ってしまうと、永久的に維持管理費がかかります。あまり過剰なものにならないようにお願いします。(63歳 男性)
- 無理して若者に合わせなくてもよいので、のんびりと歴史を感じられる空間にして欲しいものです。もちろん、ユニバーサルデザインで。お金もかからず、派手なイベントもなくてもいいと思います。(34歳 女性)
- 時間があれば、歴史跡を巡ってみたいです。(54歳 女性)
- 遠足の行き先の一つにし、子供の記憶に残るような施設整備にしてほしい。(58歳 男性)
- あまり手を加えず、自然なままがよいとおもいます。(44歳 女性)
- 修学旅行のときに一度行ったことがある。まがたまを作ったりと興味深い体験ができるので良い施設だと思う。(18歳 男性)
- なかなか自分で子供たちに教えることには限度があるので、見学したりできると色々勉強になります。体験できることはすごく良い機会になります。(34歳 男性)
- 伊勢国分寺跡の事を知らないのもっとPRしてみてもいい。PRしていても興味がないから知らないのかもしれない。(41歳 男性)
- ボランティアの説明が四六時中あったらいいと思う (58歳 男性)
- 見たことがないのでわかりません。(34歳 女性)
- できることなら斎宮址の様な感じにして欲しいところ……。周りの風景とも調和していてハイキングコースにもなる。資料館は控えめでそれも公園と調和している。あまり建物を大々的に建てても 返って興ざめしてしまう。その点全体のバランスを考えるべきだ。(31歳 男性)
- 国分寺跡などに当時の建築物等が出来れば夢の様で、現代の忙しい時代どこかゆとりが見いだされるのでは、と思う気持ちと無駄な税金を使ってはと、年金をもらうのがまた減ると、年金生活をしている者の淋しさです。(58歳 女性)
- 史跡を残し、公園化するの結構なことだが、目玉的な物たとえば、国宝級、重要文化財級の埋蔵物等があれば人が集まるかも知れないが 一時的なもので終わらないようにしたいものだ。税金を多量に使い後は管理費がかさみ草ぼうぼうって事にならないように祈りたいものだ。現に鈴鹿市考古博物館の利用者は年間いかほどか知りたいものだ。(57歳 男性)
- 地元で歴史的な遺跡は学習だけでなく大いに有効だと思います。必要いじっくに手を加える事なく想像力を掻き立てるような場所デイイと思います。何でも有る現在と悠久の昔に思いを馳せる場所として昔を体験出来る場所の併設くらいはいいのかなとも思いますが。(43歳 女性)

- 始めて聞いた言葉なので、意見等は書きようが無い。過去の遺物を整備する事も重要かも知れないが、赤字市政を考えると、未来に投資する事の方が重要なのでは？黒字になり、税金も安く出来るような体力を付ける事が、最重要課題だとは、思いませんか？市長や市役所職員のポケットマネーでやってくれるのなら結構ですが、血税を使うのならもっと、他にやらなければ行けない事は一杯有る筈！！（40歳 女性）
- 歴史を伝えるものはできる限り現状の保存に努めるべきです。俗化するのはいくつかは良いと思いますが、ただ取り付きにくくなるのも良くなく扱いが難しいです。（35歳 男性）
- 伊勢国分寺はこの地方にとって昔を知ることでできる貴重な財産である、大勢の方が気軽に出入り出来、当時の様子を知ることが出来るようにしてほしい 鈴鹿にいてもどこにあるか分からない常態では折角費用をかけて発掘調査しても効果は半減してしまうことを認識し対応すべきである（70歳 男性）
- 河曲小6年の男の子がいます、2年生で考古博物館を総合で学習しました。また今年も夏休みの宿題に考古博物館をお友達と見学に行き2学期に学習があるようです。何度行っても子供は学年に応じて学習することがいろいろあるようです。近いのでまたこれからも見学に行きたいです。（44歳 女性）
- 遺跡と言うのは今から作れるものでない点から、良い保存を希望します。遺跡の横で子供が遊ぶとかペットが遊ぶとかは構いませんが、遺跡の上で・・・となると、そこで暮らしていた人を偲ぶスタイルと違い大きな抵抗を覚えます。学術的な貢献が出来る形を強く望みます。（39歳 女性）
- 歴史公園の整備は基本的に原っぱのままに学習見学が出来る施設があればいいと思います。食堂はそんなにたくさんあると逆に行きたくないかも。少なめの方が弁当持参で遊べると思います。今、地域では原っぱが減り続けているので未来の子供達にのびのびと遊べる場所を残してあげるのも我々大人の務めではないでしょうか？（34歳 女性）
- 何かのきっかけやイベントらしきものがないとわざわざ足を運ぶことが無いので、そのような公園があることなど知らないままにしているのがとても残念に思います。（49歳 女性）
- 誰でも気軽にいつでも立ち寄れるかたぐりしくないような公園になるといいなと思います。（57歳 女性）
- 考古学博物館では毎年『夏休み子ども体験博物館』で古代のモノづくりをするのを楽しみにしています。が、その隣にある国史跡伊勢国分寺跡というのは全然知りませんでした。博物館の夏休み子ども体験と平行して、期間限定の歴史学習イベントを行ったら、きっと大いに盛り上がることでしょう。普段はあまり他の公園のように公開せずあくまで歴史を留めた姿を保っていただけなのがベストだと思います。ぜひ期待しています！（37歳 女性）
- 日本の歴史に触れる事のできる折角の遺跡です。ぜひ、もっと皆が親しめるよう整備をしてほしいです。（48歳 男性）
- Q4の7. ペットを連れて・・・ってのは大反対！ 高速道路のサービスエリアでの事。あちこちにいるわいるわ・・・犬を連れて人が、芝生を敷いた場所に座り込み、そこで買った食品を家族でほおぼってくつろいでいると、犬を連れておしっこさせてる・・・。まあ人間もトイレに立ち寄るサービスエリアな訳だから、犬だって同じかもしれない。でも不衛生！その、今犬がおしっこした場所に、明日になったら知らずに誰かが座り込むかもしれない。今自分が座ってる場所も・・・と頭によぎり・・・（「□」；）！！気分が悪くなってすぐ立ち去りました。

歴史公園がそんな場所になって欲しくないですね。(38歳 女性)

- 子供から大人まで、楽しめて、勉強出来る公園にして欲しいです。(41歳 女性)
- 考古博物館では、昨年と今年の夏休みに親子で楽しい体験をさせて頂きました。伊勢国分寺跡の整備では、昔何があったか分かりやすく学べたり年齢問わず楽しめる場を作って欲しいですね。(36歳 女性)
- 一度行ってみたいです。(50歳 男性)
- 歴史には興味があります。考古博物館事業、すすめてほしいです。(40歳 女性)
- 考古学博物館は夏休みに石をやすりでこすって作る首飾りを作りて去年行きましたが 今年も同じ物をやっていたので 毎年 違うイベントをやってほしいです！(37歳 女性)
- 考古博物館の夏休みイベントの勾玉作りに行きました。 子供に係の人が親切丁寧に教えてくださり楽しくきれいに作る事が 出来ました。このような楽しいイベントがあると遺跡や歴史にも 興味を持てたようで、展示品も色々と話しながら見学しました。 また考古博物館に行きたいようです。(42歳 男性)
- 荒れ地にならない程度の管理で日本の元風景が感じ取れるような原っぱであるのが良いと思います。(38歳 男性)
- 一度行ってみたいです。(41歳 女性)
- 「考古学は古を知り、未来に役立てるためにある」と学校で教えられたと記憶しています。現在の遺跡の発掘は古の文化（広義の）を解き明かし、それに浸って終っているような気がしません。得られた資料、情報を活用し、豊かな未来を創造するための展望がありません。ならば、時間をかけ、大金をはたいて、遺跡を掘り返すことはもう止めて、今、危機に瀕している、地球を救うためのエネルギーに転化したほうが良いと自分的には思っています。自分達のルーツを掘り起こすことは興味あることかも知れませんが、究極的には アダムとイブにたどり着くのではないのでしょうか。豊かな未来を想像できるような鈴鹿市考古博物館になることを期待しています。(61歳 男性)
- 郷土の歴史、文化に「親しみやすい施設」道の駅の様な「グルメや地産地消の機能」をそなえ「食事をするコーナー」「地域の人材雇用」「地域おこし」を期待します。従来ありがちな「箱物」にならないよう「活性化」につながる「なんどでも気軽に行ってみたい」施設として整備してください。(65歳 男性)
- 日常を忘れ、往事を偲びつつ、ごろんと横になれるような芝生公園にしていただけるとうれしい(45歳 男性)
- 鈴鹿市考古学博物館には勾玉を作らせてもらったことがあります。子供での立派なものができる工程でしたので楽しかったようでした。夏休みなどいろんなイベントをされているのに告知が少ないのかいつも静かな雰囲気では私としては気に入ってます。(43歳 男性)
- 出来れば当時のまま再現して欲しいけど、 見学者を増やすには色んな設備が必要なのかな？(50歳 男性)
- 公園化しても雑草の住処になりませんか？ お役所仕事で作れば終わり、税金の無駄遣いになるのではありませんか。考古博物館の年間入場者はどれ位ありますか。教えてください。(64歳 男性)
- 夏休みに子供と一緒に博物館に行き、子供が勾玉作りを体験している間に展示を見て回りましたが、鈴鹿市にはこんなにたくさん遺跡があるのかと驚いたのと、少し物足りなさを感じ、も

っと見てみたいと思いました。子供もまた行きたいと言っていましたし、親子で楽しみながら学習もできるような公園になればいいですね。(44歳 女性)

- あまり金をかけずに整備保存する (65歳 男性)
- せっかくの歴史遺産が揃っている場所なので、もっと知名度が上がってほしいし歴史に興味を持つ人が増えると嬉しいですね。「なんだろう？ どうしてだろう？」とワクワクするような、親子や子供同士で参加できるワークショップなどがあると楽しいと思います。(41歳 女性)
- 修学旅行ですら遊園地を選ぶ時代に、ありきたりで、保存しただけの場所へ足を運ぶ人は減る一方だと思う。楽しめるスペース作りと、少しの学習で歴史を身近に感じさせてくれればーと思います。あまり興味がない層を呼び寄せる仕掛けは必要でしょう。(35歳 女性)
- 鈴鹿は伊勢の国分寺、国府、一ノ宮など伊勢の国の主要な施設が集中しており、伊勢の国の中心だったことが分かる。この地理的な条件に恵まれた鈴鹿の歴史をできるだけ保存していくことは、我々の責務ではないだろうか。(59歳 男性)
- この夏休みにこども達と考古博物館へ行きたいと思っていたのですが、行くことができず残念です。またイベントなどがあった時に行きたいと思います。歴史公園も、こどもが楽しめてイベントなどがあると利用する機会が増えると思います。期待しています。(31歳 女性)
- 伊勢国分寺址が有るとは知りませんでした、何処に有るのか教えて下さい、(70歳 男性)
- なにせ税を使われる事なので、極力維持費などがやすあがりな形態にしてほしいですね。(43歳 女性)
- 遊びながら学習出来る様にして欲しい。何度でも足を運びたくなる様に (40歳 男性)
- 歴史公園もいいけど、鈴鹿市のどれだけの人が喜ぶだろうか？。それより、新しい道路をつかった方がよりたくさんの方が喜び便利な思いをするのではないだろうか。建設費・維持管理費を考えると、もったいない気がする。渋滞の多い道路・橋を広げて、住みやすい鈴鹿を実感したい。(46歳 男性)
- 親として、子どもに歴史的な事を興味を持った上で学んで欲しいが、子どもは何か面白さとかのとっかかりがないと興味を示さない。遺跡だけでは人は集まらないと思う。(40歳 女性)
- 考古学は余り知らないけど鈴鹿にも遺跡が残っていることに驚いてます。(35歳 女性)
- 花見が出来るぐらいの公園にして多くの方が集えるものにしてほしい。(63歳 男性)
- もし、箱もの(当時の建物再現)等を建造予定であれば、外見だけでなく、当時の庶民(底辺の人々)の生活様式、そして、酷税によって造られた それらの仏教遺跡や官僚側の考えなどを、単に、クリーン整備するだけでなく 子供達にも判り易いようにガイドしたらと思います。私は、行ったことはないのですが、博物館のガイドの方々は、朝廷からの税で、こうした建物ができたのだと言う事は、勿論 伝達済みだと思います。(59歳 女性)
- 自動車都市「鈴鹿市」として十分な広さの駐車場を施設。ペットの連れ込みはどうしても苦情が出る問題が起こり感心しない。子供の遊び場を十分な安全性を要す。(68歳 男性)
- 日本史大好きな夫婦です。史蹟巡りは楽しいですよ (37歳 女性)
- 斎宮跡のように歴史的な物を展示し、お祭りのな行事を行い、観光客を呼べるような魅力のある鈴鹿市が自慢出来るような施設にして貰うと良いと思います。(77歳 男性)
- 只単に発掘するだけではなく、その場所に当時の建造物を再現できないでしょうか。そして、その建造物の中にその時代を出来る限り再現してもらえれば、もっと市民の皆さんが見学などに訪れると思います。(69歳 男性)

- 鈴鹿市のテーマ公園は、市のホームページなどで見ると18箇所ある。代表的なものは、神戸公園、弁天山公園、江島総合スポーツ公園、鈴鹿フラワーパーク、海のみえる岸岡山緑地、鈴鹿川河川緑地そして、青少年の森公園など。しかし、大人が出かけて行って学習ができる。また、スローライフを楽しむ場として活用する。には管理が行き届いていないように思える。近所の人だけが利用しやすいのではなく、イベント開催や公共交通の便を含めて、四季折々、楽しく活力ある公園づくりをお願いします。(63歳 男性)
- あまり興味が無いので記入する事が無いです。(44歳 男性)
- 伊勢国分寺跡の整備をどうするかの前に市民、県民にもっと主体的且つ積極的にPRを博物館はすべきだと思う。はっきり言って、博物館に訪れたり、自ら関心を持って伊勢国分寺の事に思うところのある市民、県民がいかほどいるだろうか。図書館等の利用頻度と比較した場合、あまりにも低いといわざるを得ない事を高尚な歴史を扱っているからいたしかたない、理解できる人々が少ないからだとはばかりに、高慢な姿勢を正当化し、文化行政を孤高の自己満足の私利私欲の対象と歪曲している事の自覚症状すら失っている学芸員達の硬い頭を揉みほぐす事から始めないと埒外が開かない。(42歳 男性)
- 考古博物館は子供が小学生の時、夏休みによく活用させてもらいました。催し物(勾玉づくりや織物)のほとんどを制覇したと思います。とてもよかったので親も子もいい思い出になっています。(38歳 女性)
- 鈴鹿市にも、歴史的建造物や、その跡地が沢山あるみたいですが、なかなか行く機会がありません。(36歳 男性)
- 我が家も建築の時に、遺蹟調査が入りナント出てきたんですね。もうびっくりしました。作業時に水路や柱跡などがくっきりとわかり説明もして頂きよくわかりました。あれ以来少し興味がわきました。身近で体験出来て幸運でした。出てきた物よりおもしろかったです。あのような作業現場を見たら子供らも具体的につかみやすく学習意欲につながるのではないかと思います。(45歳 女性)
- 鈴鹿の歴史を知る貴重な遺産です、多くの方が行きやすいような施設、環境に整備した方が良いと思います。(60歳 男性)
- まだ子供が小さいので日影のある公園も併設して、幼稚園や学校等は見学の為にミニ遠足が兼ねられるような施設が好ましい(29歳 女性)
- 郷土の歴史を知るいいチャンスだと思い、ぜひ行って頂きたい。(54歳 男性)
- 整備のやりすぎには反対(41歳 男性)
- 歴史公園の整備は大いに賛成する。しかし、Q.3で挙げられた他遺跡に比べるとマイナーであるのは否めないなので、下手に中途半端な建物を作ることに反対。いにしえに想いを馳せることができ、市民が日常で楽しめる広場などがあればよいと思う。できれば、長者屋敷遺跡など鈴鹿川北岸台地の遺跡や古代の道を整備し、ウォーキングやサイクリングに使えればうれしい。学習設備は博物館に集約すべき。(39歳 男性)
- 鈴鹿市に住む人々が、心豊かな生活をするには、郷土の成り立ち(歴史)を知ることが大切だと考えます。その意味から、関心や興味をいただいた時に、「そこに行けば分かる施設・環境」は必要と考えます。残念な事に「伊勢国分寺跡」・「吉野ヶ里・・・」はまだですが、「平城宮跡」・「斎宮跡」は、いづれも行きました。(61歳 男性)
- 鈴鹿は貴重な国分寺遺跡があることをもっと市民の人達に知ってもらうためにも遺跡公園が必

要だと感じています。公園が出来たら、大変貴重な市民の公園になるのではないかと思います。(65歳 男性)

- 次世代に伝えていかなければならし、それをもっと利用しやすく、身近なものとして、関わっていく機会もつくっていかねばいけないのではないのでしょうか(39歳 男性)
- 近いうちに時間を作り見てみたいと思います。(59歳 男性)
- 歴史公園、楽しみです！考古博物館は子供たちと何度も行きました。老若男女問わず歴史にふれながら楽しいときを過ごせる公園を望みます(^0^)(40歳 女性)
- 考古博物館での体験学習で勾玉作りや火お越し等を体験しましたが、とても楽しく参加させて頂けおもしろかったです。何回も行くので勾玉も何個もたまっています。また他のも体験したいと思います。このように当時のことを体験出来るのは大変楽しくまた勉強になるので色々と珍しいことをお願い致します。(48歳 男性)
- 説明看板に主要な事柄が書いてあり、遊びながら学べるようにできれば良いと思う。(58歳 男性)
- 近くにあるのは知っているのですが、近すぎていつでもいけると思うのか、まだいったことはないです。イベントとかがあり、告知があれば、行こうという気になるとおもいますが。(40歳 女性)
- 1) 鈴鹿市民が憩える歴史公園があればうれしい。施設の維持管理経費等が市税収を圧迫しないよう財源確保してほしい。2) 鈴鹿市の家族で出かけた楽しめる場所は、(1) 鈴鹿サーキット(2) 青少年の森(3) 椿神社?鈴鹿伝統工芸館?鈴鹿スポーツガーデン?鼓が浦の浜?稲生神社?白子の浜?荒神山&加佐登神社?神戸城、などが我が家の主なものです。いいところ教えてください。3) 歴史・伝統技術・娯楽・自然景観・食・体験学習等を組み合わせた鈴鹿観光めぐりのバスを三重交通に検討依頼してはどうでしょうか。(62歳 男性)
- 考古博物館の講座には度々出席しますが大抵、土、日、開催が多く自己都合で出席できない場合があり、講座を録画等して後日 CNSで放映して欲しい。(66歳 男性)
- 鈴鹿市考古博物館は建物は立派だけど入場者は他に見あたらず 余り活用されていないように感じました。(38歳 女性)
- 鈴鹿市考古博物館へは2度行きました。伊勢国分寺跡のことを学習し、当時この場所に大きな力を持った国分寺があったことを知り、当時の華やかさに想いを馳せました。石薬師町からこの辺りは広々とした良いハイキングコースであり、考古博物館の見学も兼ねています。国分寺跡を整備すれば、鈴鹿の新名所として各地からハイキングを兼ねて来てくれると思います。ぜひ進めて下さい。(67歳 男性)
- 今までに鈴鹿市内の歴史的なもの、考古学的なものをいろいろと紹介されてきたと思いますが、これらをMAPを含めて一冊の冊子にまとめられたものはありますか?もしあれば入手方法等を教えてください。又、それらを簡単にまとめたものを広報と一緒に保存版として市民に配布してはどうでしょうか?(52歳 男性)
- 公園を作るのに、いくらかかるのでしょうか?そんな事に税金を使わないでほしい!(31歳 女性)
- 今主人が歴史小説に凝っていてよく京都・奈良・鎌倉などのお寺や歴史的建造物などを見に行っていますので近くあれば見に行きたいと思います。(52歳 女性)
- 伊勢国分寺跡については近くの道路は何回も通ったことがありますけどどこにどうい

う風に広がっているのか分かりません。説明プレートを分かりやすいところに設置していただくとかはできないでしょうか。できれば駐車場も整備して頂くと良いと思います。(44歳 男性)

- 日本の歴史を知る 一度、行ってみたいです！(41歳 女性)
- 知名度が極端に低く投資して整備してもお荷物になるだけだと思う。教育の意味は重要ですが現在の考古博物館で十分です。跡地は跡地として保存すべきだと思います。43歳 男性
歴史はおおいに学ぶべし(39歳 男性)
- 歴史は奥深いですね。(64歳 女性)
- 鈴鹿は工業の町というイメージがあるので、考古学 といってもピンとこない(39歳 女性)
- 歴史公園として整備されるのはいい事だと思う 市民が親しめる場所にならないとただの無駄使いになる 新しい公園になる事を期待します(33歳 女性)
- なかなか、訪ねる事が出来ない状況なので、いつかはいろんな所を見てみたいと思う。(48歳 女性)
- 斎宮跡のように当時がよくわかる形で公園になるといいなと思います。歴史的な跡地だけに、学習に役立つという目的メインでお願いしたいです。(42歳 女性)
- 考古物博物館親子参加していた頃を思い出しました。今と違いものはないところから考えていき生み出され 豊かな生活につながっている。体験されるところでほんと助かっています。(44歳 女性)

(5) 鈴鹿市考古博物館の活動内容

鈴鹿市考古博物館（平成10年度）（年間入館者数：6,297人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
開館記念特別展 鹿と古代人	10月1日～11月8日	3,187人	鈴鹿市の名の由来として市のマスコットにもなっている鹿をテーマとして、それに係わる遺跡・遺物を題材に考古学的な分析を行って、古代の人々の営みと精神世界へ迫る。	開館記念講演 演題：「鈴と鹿」 期日：11月3日 講師：春成秀爾氏 聴講者数：70人
企画展 椎山の中世陶器 鈴鹿の遺跡1	11月21日～1月24日	1,306人	昭和52年に発掘調査された市内加佐登町の椎山中世墓から出土した平安時代末期から室町時代にかけての陶器28点を展示。	
企画展 発掘された鈴鹿'97～'98 鈴鹿の遺跡2	2月6日～3月28日	1,317人	平成9年～10年にかけて鈴鹿市内で実施された17遺跡の発掘調査の出土品340点と発掘調査中の航空写真などのパネル40点を展示。	

教育普及及び資料保存活動	実施日	参加者	内容	関連事業
博物館講座 縄文の編み物	1月17日	15人	講師：久保禎子氏 縄文時代の編み物・編衣をつくる。素材のからむしの説明・編衣の説明・考古学・民俗学的説明・からむしを撚る・アングイン台を使って編む。	
博物館講座 石器づくり	2月27日	11人	講師：当館学芸員 ステンドグラス、黒曜石、サヌカイトを使用して石鎌を作る。石器の説明→石から剥片をとる→石鎌の作成。	
ポスター展 私の描く古代人・博物館	10月1日～11月8日	109人	鈴鹿市立河曲小学校6年生が作成したポスターを博物館展示ホールで展示。	
体験学習 勾玉づくり・土笛づくり	毎週土曜日・日曜日	勾玉：399人（10月24日～3月31日） 土笛：25人（1月9日～3月31日）	講師：当館学芸員	

鈴鹿市考古博物館（平成11年度）（年間入館者数：10,791人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
特別展 誕生～縄文時代の母と子～	7月24日～9月5日	1,966人	縄文時代の土偶や装飾土器に表現された出産や育児の情景や埋甕や埋葬の習俗などに注目し、厳しい自然環境の中を生き抜いてきた彼らのたくましい生活と奥深い精神世界の一端に迫る。	記念講演会 演題：「原始・古代の母と子」 期日：8月1日 講師：佐古和枝氏 聴講者数：70人
企画展 タイムトリップ上箕田～鈴鹿の遺跡2～	4月10日～7月11日	3,894人	鈴鹿川三角州の自然堤防上に営まれた弥生時代の拠点集落である上箕田遺跡について、昭和35年の発見以来6次にわたって実施された発掘の成果を公開し、特に自然環境の変化と遺跡の変遷について考える。	
企画展 石薬師東古墳群～鈴鹿の遺跡3～	10月2日～12月5日	2,217人	石薬師東古墳群は三重県消防学校の整備に伴い60基以上の5世紀後半から6世紀前半にかけての小型古墳が発掘され、北勢地域では最大規模の古式群集墳であることが明らかになっている。今回はこれまで発掘調査の成果をまとめ、出土した主な形象埴輪・須恵器を展示する。	
企画展 底がものを言う～淡輪系埴輪の世界～	12月14日～2月27日	1,076人	淡輪系埴輪は、植物質のリングをベースに底部を形成する独特の技法で多くの埴輪研究者が注目するところである。鈴鹿市の埴輪文化を特徴づけるこの淡輪系円筒埴輪を広く紹介するとともに、県内各地の新出土資料や県外の主な資料を集め	

			その特性について考える。
速報展 発掘された鈴鹿1999	3月4日～5月14日	1,931人	1999年に鈴鹿市内で発掘された遺跡について紹介する。

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「拓本をとろう」	9月12日	10人	講師：当館学芸員	
		「石鏃を作ってみよう」	11月28日	30人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	12月26日	15人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「現場の見方」	5月30日	40人	講師：当館学芸員	
		「古墳時代の馬と馬具」	10月24日	30人	講師：澤村雄一郎氏	
		「埴輪から考える」	2月20日	50人	講師：穂積裕昌氏	
	シリーズ古代の役所と寺を考える					
		①「木簡を読む」	6月20日	35人	講師：山中章氏	
		②「瓦を読みとく」	7月18日	41人	講師：上原真人氏	
		③「東海の官衙遺跡を掘る①」	3月12日	35人	講師：田中弘志氏、当館学芸員	
夏休み子ども博物館		7月24日～8月31日	期間中入館者1,851人	夏休み期間中、子ども向けに勾玉づくり・土笛づくり・縄文の編み物・弥生の機織り・拓本・土器の接合などの体験学習と考古学関係入門ビデオの上映を行った。対応には当館職員のほか市民ボランティア及び博物館実習生・小学校教諭研修生があたった。		
勾玉・土笛づくり		毎週土曜日・日曜日及び祝日	1,350人	体験学習の中でも人気の高い勾玉づくり・土笛づくりについては、予約不要でおこなえるようにしている。		
博物館実習		7月23日～7月29日	京都精華大学生1名	実習		
移動博物館		2月4日～2月6日		三重県博物館協会が開催する第21回移動博物館に初参加した。当博物館の体験学習（縄文の編み物・石器の切れ味を試そう・土笛づくり）を作品とパネルで紹介するとともに、勾玉づくりの体験コーナーを開設。		

鈴鹿市考古博物館（平成12年度）（年間入館者数：10,942人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
特別展 石と人の暮らし	9月23日～11月26日	1,975人	原始・古代の社会では鉱物・岩石が基本的な素材として盛んに利用された。身近にある素材を巧みに利用したものもあれば、驚くほどの遠隔地から交易等によって素材を入手している場合もある。今回の展示では、素材となる石を中心として流通の様相と加工技術について見ていきたい。	記念講演会 演題：「石器石材の歩跡を求めて」 期日：9月23日 講師：齋藤基生氏 聴講者数：35人 演題：「近江の玉の玉作り」 期日：11月23日 講師：近藤広氏 聴講者数：50人
企画展 東海道の国分寺	7月1日～8月31日	2,792人	伊勢国分寺跡の寺域内の調査がようやく開始されたことにちなみ、これと関連の深い東海諸国の国分寺跡の発掘調査成果を紹介し、比較することによって伊勢国分寺跡の位置づけを考える。	
企画展 摺絵～形紙とやきもの～	1月6日～3月4日	999人	摺絵は陶磁器の下絵付けに型紙を用いる技法で、瀬戸・美濃窯では江戸時代中期および明治期に盛んに用いられた。摺絵型紙は美濃和紙を渋柿で補強した渋紙に	

			絵柄を彫りぬいたもので、当市の伝統産業である伊勢型紙と酷似している。今回の展示では、摺絵技法の変遷を中心に近世瀬戸・美濃窯のやきものを紹介するとともに、同じ洪型紙を用いる伊勢型紙との関連を探って行きたい。
速報展 発掘された鈴鹿2000&企画展 中勢バイパス関連発掘遺跡展	3月24日～7月1日	85人（平成12年度分）	当館では、開館時から毎年「発掘された鈴鹿」と銘打ち前年調査された遺跡の速報展示を行ってきた。今回も2000年内に発掘された5遺跡を写真と出土遺物で紹介する。また、今回は平成4～7年にかけて三重県埋蔵文化財センターが調査を行った中勢バイパス関連遺跡の資料展を企画展として併設する。
ホール展示 染めと織り	6月21日～8月20日		体験講座「草木染め」の開催にちなみ市内在住の染織工芸家大嶋夕子氏の収集した紡ぎ・織り・染めに関する素材や民族・民俗資料を展示する。
ホール展示 博物館の舞台裏	11月30日～3月31日		発掘現場での遺物の出土から博物館の展示ケースに収まるまでの、洗浄、注記、接合、復元といった遺物整理作業を写真パネルと実際の道具や遺物で紹介する。

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「バケツで古代米をつくろう」	5月13日	24人	講師：生川孝夫氏	
		「草木染めをしよう」	6月24日	15人	講師：大嶋夕子氏	
		「石器の切れ味を試そう」	10月14日	3人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	10月14日	12人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「発掘された美濃窯」	5月30日	55人	講師：田口昭二氏	
	シリーズ古代の役所と寺を考える					
		⑤「国分寺の謎を探る」	7月20日	55人	講師：須田勉氏	
	⑥「東海の官衙遺跡を掘る2」	3月20日	45人	講師：林弘之氏		
夏休み子ども博物館		8月5日～8月20日	1,733人	夏休み期間中、子ども向けに勾玉づくり・土笛づくり・縄文の編み物・弥生の機織り・拓本・土器の接合などの体験学習と考古学関係入門ビデオの上映を行った。		
勾玉・土笛づくり		毎週土曜日・日曜日及び祝日		体験学習の中でも人気の高い勾玉づくり・土笛づくりについては、予約不要でおこなえるようにしている。		

鈴鹿市考古博物館（平成13年度）（年間入館者数：9,531人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
企画展 鍋の一万年～煮炊きの歴史～	7月20日～9月16日	2,663人	縄文時代から現代までの煮沸具について、発掘資料を中心に展示し、煮炊きの変遷をたどる。	関連講座 演題：「伊勢型鍋と中世の伊勢」 期日：7月29日 講師：伊藤裕偉氏 聴講者数：42人
特別展 耳飾り～古くて新しい身体加工～	10月6日～12月2日	1,330人	保子里1号墳出土の金製垂飾付耳飾と北一色遺跡出土の耳栓の2つの対照的な遺物を軸に、耳飾の移り変わりについて考える。	講演会 演題：「保子里1号墳出土・垂飾付耳飾の技術復元について」 期日：11月3日 講師：依田香桃美氏 聴講者数：34人

					体験講座 内容：古代の技術に挑戦～兵 庫鎖を作ろう～ 期日：11月3日 講師：依田香桃美氏 参加者：26人
企画展 三重のおかしな須恵器	1月5日～3月10日	1,055人	三重県から出土した特殊な形態の須恵器を一堂に集め紹介。		関連講座 演題：「装飾付須恵器のなぞ」 期日：1月20日 講師：山田邦和氏 聴講者数：70人
速報展 発掘された鈴鹿2001	3月21日～6月30日	3,810人	2001年に鈴鹿市内で発掘された遺跡について紹介した。		

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「縄文の編物を編む」	6月24日	9人	講師：久保禎子氏	
		「ガラス玉を作ろう」	3月23・24日	10人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「稻荷山鉄剣の年代は正しいか」	5月13日	75人	講師：尾野喜裕氏	
	シリーズ古代の役所と寺を考える					
		「近江国府跡」 「伊勢国府跡発掘調査速報」	2月17日	61人	講師：平井美典氏、当館学芸員	
夏休み子ども博物館		8月4日～19日	1,721人	夏休み期間中、子ども向けに体験学習を行った。また、所蔵するビデオソフトを閲覧できるように、機材を設置した。 「勾玉を作ろう」「拓本をとってみよう」「復元に挑戦」「縄文の布を作ろう」		
体験学習		毎週土曜日・日曜日 及び祝日	約500人	体験学習の中でも人気の高い勾玉づくり・土笛づくりを予約不要でおこなえるようにしている。		
博物館実習		8月7日～12日	筑波大学生1名	実習		
教員研修		8月7日～9日	市内小学校教諭2名	実習		
移動博物館		8月3日～5日	102人	三重県博物館協会が開催する平成13年度移動博物館に参加した、		

鈴鹿市考古博物館（平成14年度）（年間入館者数：12,326人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
市制60周年企画展 戦争遺跡を掘る－鈴鹿市が生まれた頃	7月20日～9月16日	5,436人	市制60周年にあたり、市内に残る軍事施設の跡や伝世資料から“軍都鈴鹿市”を振り返り、鈴鹿市及び近隣における戦跡考古学の成果を収集。	関連講座 演題：「鈴鹿市の軍事遺跡」 期日：7月21日 講師：浅尾悟氏 聴講者数：85人
特別展 発掘された国府－東海道・東山道の国府－	10月2日～12月1日	1,884人	伊勢国府跡の国史跡指定という節目の時期に際し、近年新展開のあった常陸・三河・伊勢・伊賀・近江・美濃などを含む古代東海道・東山道地域に範囲を絞って、各地における国府調査の成果を紹介。	伊勢国府跡史跡指定記念ミニシンポジウム 期日：10月27日 講師：八賀晋氏、早川万年氏、泉雄二氏、林弘之氏、中川尚

				子氏、平井美典氏、当館学芸員 聴講者数：84人
企画展 弥生時代の石器－生産から消費まで－	1月12日～3月2日	587人	三重県及び近隣の地域における生産遺跡や集落遺跡の弥生石器を集め、使用法の想定を交えながら生産から消費に至る流れを追い、金石併用期の石器文化を考える。	関連講座 演題：「石器の使用痕を探る」 期日：1月19日 講師：原田幹氏 聴講者数：63人
速報展 発掘された鈴鹿2002	3月21日～6月29日	2,899人	2002年に鈴鹿市内で発掘された遺跡について紹介する。	

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「兵庫鎖を作ろう」	4月21日	5人	講師：当館学芸員	
		「古代米を作ろう」	5月11日～11月10日	7組	講師：当館学芸員	
		「布を作る」	5月26日・6月23日 ・7月7日	5人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	9月8日	7人	講師：当館学芸員	
		「兵庫鎖を作ろう」	12月15日	1人	講師：当館学芸員	
		「石器を作ろう」	2月23日	1人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	3月16日	10人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「船形埴輪誕生の舞台裏」	5月12日	42人	講師：福田哲也氏	
	シリーズ古代の役所と寺を考える					
	「正家廃寺」	3月23日	40人	講師：三宅唯美氏、当館学芸員		
	「伊勢国府跡発掘調査速報」					
夏休み子ども博物館		7月23日～9月1日	4,854人	夏休み期間中、子ども向けに体験学習（勾玉・土笛・拓本・復元・アンギン・草木染・兵庫鎖）を行った。また、所蔵するビデオソフトを閲覧できるように、機材を設置した。		
体験学習		毎週土曜日・日曜日 及び祝日		体験学習の中でも人気の高い勾玉づくり・土笛づくりを予約不要でおこなえるようにしている。		
博物館実習		8月6日～18日	立命館大学生1名 法政大学生1名	実習		
教員研修		7月25・30日 8月 7・16・22日	市内小学校教員1名・養護学校教員 2名	実習		

鈴鹿市考古博物館（平成15年度）（年間入館者数：10,564人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
企画展「縄文と弥生の間」	7月13日～9月7日	4,605人	日本における東西文化の中間地点にあたる伊勢湾西岸地域を中心に、縄文晩期から弥生前期にかけての土器・墓制・住居などについて紹介。	関連講座 演題：「縄文から弥生へ－伊勢の動き－」 期日：7月13日 講師：山田猛氏 聴講者数：53人
特別展 磯山銅鐸の時代	10月25日～11月30日	1,277人	磯山銅鐸及び伊勢湾沿岸より出土した銅鐸とその関連遺物を中心に展示。	関連講座 演題：「磯山銅鐸を考える」

				期日：11月23日 講師：難波洋三氏 聴講者数：130人
企画展「文字瓦を考える」	1月17日～3月7日	612人	伊勢国府跡・伊勢国分寺跡出土文字瓦の分類の成果を中心に、近隣地域の例との比較を交えながら展示	関連講座 演題：「瓦から見た北勢地域の古代寺院と官衙」 期日：1月17日～3月7日 講師：竹内英昭氏 聴講者数：45人
速報展 発掘された鈴鹿2003	3月20日～7月4日	3,060人	2003年に鈴鹿市内で発掘された遺跡について紹介	

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「古代の工芸に挑戦」	6月14日	10人	講師：当館学芸員	
		「昔の色で染めよう」	9月27日	2人	講師：当館学芸員	
		「勾玉を作ろう」	12月13日	13人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	3月14日	8人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「北畠氏館跡の発掘調査」	5月11日	37人	講師：石淵誠人氏	
	シリーズ古代の役所と寺を考える					
		「宮町遺跡の発掘調査－ここま でわかった紫香楽宮－」 「天王遺跡発掘調査速報」	3月21日	46人	講師：鈴木良章氏、当館学芸員	
夏休み子ども博物館		7月19日～8月31日	4,380人	夏休み期間中、子ども向けに体験学習（勾玉・土笛・拓本・復元・アングイン・草木染・兵庫鎖・火起こし）を行った。また、所蔵するビデオソフトを閲覧できるように、機材を設置した。		
体験学習		毎週土曜日・日曜日 及び祝日		体験学習の中でも人気の高い勾玉づくり・土笛づくりを予約不要でおこなえるようにしている。		
博物館実習		7月19日～8月31日 (各期間中の1週間 ずつ)	愛知学院大学1名 北里大学1名 皇學館大学1名 高知大学1名 信 州大学1名 鈴鹿国際大学6名	実習		
教員研修		7月	市内小学校教員1名	実習		
おいん鈴鹿		10月3日～5日	銅鐸：17人，勾玉：75人	「磯山銅鐸の時代」予告ミニ展示・銅鐸の模型作り・勾玉を作ろう		

鈴鹿市考古博物館（平成16年度）（年間入館者数：8,787人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
企画展「かわわの考古学－掘った・わかった河曲のむかし」	7月17日～9月5日	2,862人	行政区・学校区・JR駅名となっている「河曲」は古代の行政区である「河曲郡」や「川部郷」に由来する。古来交通の要衝として栄え、古代東海道の河曲駅家も当地域のどこかに置かれていた。敏達天皇に嫁ぎ、舒明天皇の母田村皇女を産んだ菟名子夫人は伊勢大鹿首小熊の女で、この大鹿氏の本拠地は伊勢国河曲郡といわれている。本展示では、現在の河曲地区を中心に古代河曲郡の考古資料を紹介した。	関連講座 演題：「河曲の古代」 期日：7月18日 講師：岡田登氏 聴講者数：87人
特別展「暫ク關東ニ往カントス－聖武の道－」	10月24日～12月5日	893人	聖武天皇の東国巡幸の経路にあたる遺跡、聖武天皇関連の平城京・恭仁京・難波宮・紫香楽宮などの宮跡、離宮そして寺院について考古資料を中心に紹介すると	関連講座 演題：「聖武天皇の東国行幸と

			ともに、奈良時代の社会情勢を考える。	紫香楽宮 期日：11月13日 講師：栄原永遠男氏 聴講者数：112人
企画展 古代の鬼瓦	1月23日～2月27日	555人	8世紀後半の伊勢国府や国分寺からは建物の大棟などを飾る鬼瓦が出土している。本展示では国分寺・国府の鬼瓦を中心に東海地方における古代の鬼瓦を紹介する。	関連講座 演題：「奈良時代の鬼瓦」 期日：2月26日 講師：岩戸晶子氏 聴講者数：70人
速報展 発掘された鈴鹿2004	3月20日～7月3日	2,937人	2004年に市内で調査された遺跡を紹介した。平野遺跡・宮上道遺跡・天王遺跡・伊勢国分寺跡・甲懸けⅡ遺跡・平田遺跡などの調査結果を発表した。	

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	体験講座	「兵庫鎖を作ろう」	10月16日	4人	講師：当館学芸員	
		「ガラス玉を作ろう」	12月18日	10人	講師：当館学芸員	
	入門講座	「古代伊勢湾の海上交通と天王遺跡」	5月16日	60人	講師：穂積裕昌氏	
	講座	「古文書を読む」	9月25日	14人	講師：当市学芸員	
	寺院官衙シリーズ	「伊勢国司と斎宮」	3月20日	60人	講師：榎村寛之氏	
夏休み子ども博物館		7月22日～8月31日	2,712人	夏休み期間中、子ども向けに体験学習を行った。 「土笛を作ろう」「勾玉を作ろう」「博物館の秘密探検隊」「兵庫鎖を作ろう」「気まぐれ体験講座」「縄文の布を編もう」		
体験学習		毎週土曜日・日曜日及び祝日		勾玉・土笛づくりを予約不要でおこなえるようにしている。		
博物館実習		7月21日～8月29日 (期間中の6日間)	皇學館大学1名 鈴鹿国際大学5名 東海大学1名	実習		

鈴鹿市考古博物館（平成17年度）（年間入館者数：9,598人）

展示活動	期間	期間中入館者数	内容	関連事業
企画展「じょうもん土器とやよい土器」	7月17日～9月19日	3,774人	はるか昔、鈴鹿市を含む三重県内には、現在の私たちをも魅了するような美しい土器を使用する縄文人や弥生人の存在がありました。これらの土器を製作・使用していたのはいったいどのような生活をする人々だったのでしょうか。もちろん文献や記録の残らない過去の時代のことですから誰にも分かるはずがありません。しかし現代に生きる私たちは、遺構や遺物を通してさまざまな情報をひろいあげ、それを糸口にして過去に生きた人々の生活を証明していくことができるのです。この企画展では、現在までに県内で出土した良好な縄文土器と弥生土器を時代別・時期別に展示しました。また会期が子どもたちの夏休みの時期と重なるため、小学生はもとより多くの方々に観覧していただき、その土器を使用したであろう私たちの遠い祖先である縄文人や弥生人の暮らしぶりに思いをはせ、現在の自分たちの生活を見つめ直していただければと考え企画しました。	関連講座 演題：「土器からみた縄文人の暮らしと知恵」 期日：7月17日 講師：山本直人氏 聴講者数：80人
特別展「鏡よ鏡よ鏡さんー北伊勢の古鏡ー」	10月8日～12月11日	1,034人	私たちは現在、鏡を主に身だしなみを整えるための道具として使っています。し	関連講座

			かし過去においては、鏡はむしろ呪術的な役割を持つものでした。弥生時代に大陸から伝わってきて以来、鏡は時代時代の権力者の財宝や祭事の器として使用され、時には権威の象徴にもなったのです。この特別展「鏡よ鏡よ鏡さんー北伊勢の古鏡ー」では、三重県北勢地方で出土・伝世した古墳時代から現代までの鏡と供伴遺物を展示しました。鈴鹿市や亀山市等の古墳から出土した鏡や勾玉・管玉等です。また多度大社所蔵で重要文化財の経塚出土鏡も5点や、普段めったに見る機会のない神社や寺に伝世する鏡を展示します。美しい文様や形態を鑑賞し、当時の人々がどのような想いでそれらの鏡を使っていたのかを想像していただきたいと考えました。	演題：「伊勢湾をめぐる鏡の文化史」 期日：10月16日 講師：久保智康氏 聴講者数：90人
企画展 椎山の中世陶器 Part II	1月14日～3月12日		高宮資料館が所蔵する椎山中世墓から出土した遺物中心に、県内の中世墓から出土した良好な中世陶器を紹介した。これらの遺物は考古学的に貴重な資料であるが、美術的にみてももちろん第一級の資料である。縄文土器や弥生土器などの土器とは違ったやきものの優美さを味わえる展示である。	関連講座 演題：「東海の中世のやきもの」 期日：2月11日 講師：藤澤良祐氏
速報展 発掘された鈴鹿2005	3月21日～7月9日		2005年に市内で調査された遺跡を紹介する。白鳥塚1号墳・伊勢国分寺跡・伊勢国府跡・平田遺跡などの調査結果を発表。	

教育普及及び資料保存活動		実施日	参加者	内容	関連事業	
博物館講座	入門講座	「尾張の須恵器と北伊勢」	6月12日	70人	講師：城ヶ谷和広氏	
	講座	「古文書を読む」	11月27日	21人	講師：当市学芸員	
	寺院官衙シリーズ					
		「美濃国分寺跡の発掘調査成果について」	3月26日		講師：高田康成氏	
夏休み子ども博物館		7月26日～8月31日	3,321人	夏休み期間中、子ども向けに体験学習を行った。なお、本年度は教員OB・発掘作業員有志によるボランティアが指導に参加した。 「土笛を作ろう」「勾玉を作ろう」「白鳥塚古墳を歩こう」「水曜お話し会」「金曜探検隊A」「金曜探検隊B」「日曜ガイドツアー」「花びらや根っこで染めよう」「わらじを作ろう」「縄文時代の布を作ろう」「古墳時代のアクセサリーを作ろう」「あじろ編みのカゴを作ろう」		
体験学習		毎週土曜日・日曜日及び祝日		体験学習の中でも人気の高い勾玉・土笛づくりを予約不要でおこなえるようにしている。		
出前講座				「博物館見学事前学習（鈴鹿市立椿小学校6年生）」「博物館見学事前学習（鈴鹿市立加佐登小学校6年生）」「勾玉作り（三重県立石薬師高等学校）」「火おこし体験（亀山市立西小学校歴史クラブ）」「土笛作り（鈴鹿市立河曲小学校6年生）」「紅花染め・土笛作り（一ノ宮市民館）」「火おこし体験（亀山西小学校歴史クラブ）」「勾玉作り（亀山西小学校歴史クラブ）」「勾玉作り（亀山市立中央公民館）」		